

イケメン教師の受難

伝説の水泳大会篇

第四卷 快感に溺れるイケメン教師

海老沢 薫 著

## 内容

- 著作権について
- まえがき
- 第一章 逃げ惑うイケメン教師
- 海老沢薫 WEB LOG
- 海老沢薫 Web連載小説

※ 海老沢薫 BLOG

<http://kaoruebisawa.blog.fc2.com/>

・ ・ ・ サイドストーリー 『イケメン教師の受  
難 伝説の運動会篇』 や、最新作の出版情報  
そのほか各種コンテンツ情報などを配信。

■ 著作権について  
「イケメン教師の受難 伝説の水泳大会篇」  
第四巻 快感に溺れるイケメン教師」（以下  
本書と表記する）の著作権は「海老沢薫」に  
あります。

・ 本書のすべての内容は、日本の著作権法、  
及び国際条約によって保護されています。

・ 「海老沢薫」が事前に書面をもって許可し  
た場合を除き、本書の一部、または全部を、  
あらゆるデータ蓄積手段（印刷物、電子ファ  
イル、ビデオ、テープレコーダー）により複  
製、流用、転載、転売することを固く禁じま  
す。

・ 著作権の侵害につきましては、著作権法第  
119条などの罰則がありますのでご注意くださ  
い。

■ まえがき  
三年生男子の水球の試合に強制参加させられたイケメン教師の三神真琴は、味方チームの生徒達から集中的にボールをパスされたせいで、相手チームの生徒達に一人狙われることになった。  
そして決勝まで進むと、相手チームの生徒達だけでなく味方チームの生徒達までもがイケメン教師を取り囲み、水中で下半身を好き放題に弄り倒した。  
「あああっ、もうやめてくれ・・・あああっ、あああっ、もうやめてくれ・・・あああっ、あああっ、もうやめてくれ・・・」  
プールサイドを埋め尽くす全校生徒の見つめる前でオスの鳴き声を放ち、快感に激しく悶える狂う真琴。水球の試合はいつしかイケメン教師の陵辱ショーと化していった。  
すると、見かねたベテラン男性教師がプールの中で悶え狂うイケメン教師に檄を飛ばし、水球の試合は思いがけないルールで決着をつけることになる。  
やがて、水球の決勝は無事に終わりを迎える。

たが、試合中に男子生徒達から大量のミルクを搾り取られてしまったイケメン教師はグックタリした様子で水面を漂っていた。そんなイケメン教師に対して理不尽なまでの罰ゲームがプールサイドのスピーカーからアナウンスされ・・・。

イケメン教師は一糸纏わぬ姿のままベテラン男性教師に腕を引っ張られて屋外プールから少し離れた場所にある校庭へと連れて行かれ、そこで十周走るよう命じられたのだった。真琴が羞恥に震えながら校庭を走り出すと、いつしかプールにいた全校生徒の多くが校庭へと押し寄せ、イケメン教師の全裸マラソンをギラギラした目で見守った。

而して、屈辱の罰ゲームを終えた真琴がフラフラになりながら再びプールへ戻ると、イケメン教師を新たな羞恥地獄へと誘う驚愕の競技が幕を開けるのだった。

■ 第一章 逃げ惑うイケメン教師

高校の水泳大会が行われている校内プールでは今まさに三年生男子による水球の決勝が繰り広げられていた。そんな中、男子生徒達に混じってプレイするイケメン教師の三神真琴は一人恍惚とした表情を浮かべて水面を漂っていた。そして、水球の試合を戦う男子生徒達やプールサイドから観戦する全校生徒、同僚教師達は皆意味深な笑みを浮かべながらその姿を眺めていたのだ。――おい先生、いつまで気持ち良さそうに寝てるんだよ！サツサと試合始めるぞ！――

真琴と同じチームで戦う一組の男子生徒はそう言っていて、イケメン教師の頬を叩いた。――ああっっ――

ようやく目を覚ました真琴は自分が犯してしまった失態に気づき、酷く動揺した。――

プールの中に一人だけ素っ裸でいる真琴は

水球の試合が始まるとすぐに、敵チームの生徒達だけをなく味方チームの生徒達にまで周りを囲まれ、下半身を好き放題に弄られてしまったのだった。そうして、快感に耐えきれなくなった真琴はプールのど真ん中でオスの叫び声を上げながら、今日何度目かの射精を果たしてしまっただのだ。プールの水面に自らが放った白濁の汁が漂っているのを見た真琴は、どうしようもない羞恥に襲われ、今すぐこのプールから逃げ出したかった。衝動に駆られた。しかし、強引にプールをパスされると、真琴はそのままプールの中で戦うしかない。味方チームの男子生徒が大声で指示を出す。真琴はボールを手に持ったままプールの中を必死に泳いだ。またしても敵チームの生徒達がイ

ケメン教師を取り囲み、背後から二人がかりで羽交い締めにして水中で体を押さえつける。と、残りの生徒達は剥き出しの下半身に一斉に手を伸ばし、再びイチモツや尻の穴を弄り倒したのだ。

「あぁっ、もうやめてくれ・・・」

真琴は必死にもがきながら彼らに懇願したが、その姿は却って男子生徒達の加虐心を煽ることに。なり、プールの中ではまたも惨劇が繰り広げられた。

「アハハッ、先生またやられてるぜ(笑)」

「これじゃあもう水球じゃなくて先生の玉の取り合いじゃん(笑)」

「今年の水泳大会はめっちゃ盛り上がってるな(笑)」

プールサイドにいる生徒達はそう言っただけで、プールの中で男子生徒達に取り囲まれ、激しく悶え狂うイケメン教師の姿を面白そうに眺めた。

一方、ベテランの男性教師をはじめとする



同僚教師達は、水球の試合がいつの間にかイケメン教師の陵辱ショーになってしまっているにも関わらず、誰も生徒達を咎めたり、試合を中止させようとはしなかった。むしろ、イケメン教師がこのままプールの中で男子生徒達に強姦されて、オスの鳴き声を上げながらイク姿を期待しているようにさえ見えなかった。プールの中で試合する男子生徒達は、もう水球の勝敗などどうでも良くなったのか、誰もボールを奪い合おうとはせず、それよりもイケメン教師のイチモツや尻の穴を奪い合っ  
ていた。  
「先生、気持ち良いか？」  
「先生のチ○コまたデカくなってきたぞ！」  
「先生、どんだけエロいんだよ！」  
プールの中の男子生徒達は自分達の手で悶え狂うイケメン教師の底知れぬ性欲に驚くと同時に、半ば呆れ果てていた。  
「あぁっ、もうダメだ・・・あぁあぁっ」

プールの中にイケメン教師の断末魔の叫び声が響くと、真琴の体はまたも激しく痙攣し水しぶきが上がった。　「イエーイ！」　プールの中の男子生徒達は、イケメン教師の射精を見届けると、敵味方関係なくハイタツチを交わして盛り上がった。　そうして、水球の試合は両チーム共に一点も入らないまま時間だけが過ぎていった。　「三神先生、さっきから変な声ばかり出して何しているんだ！　もっと真面目にやりなさい！」　泳大会の進行が妨げられると思ったのか、プールサイドから男子生徒達ではなくイケメン教師を厳しく注意した。　「ああっ、す、すみません。・・ああっ」　真琴は水中で男子生徒達に下半身を弄られながら、プールサイドのベテラン教師に向かった。　「ああっ、す、すみません。・・ああっ」

な笑みを浮かべると、進行係の生徒達の席へ  
プールの中の真琴に注意するのを止め、不敵  
　　すると、見かねたベテラン男性教師はもう  
　　を放つことしかできなかつた。  
　　ってアへ顔を晒しながら、言葉にならない声  
　　イドに仁王立ちするベテラン男性教師に向か  
　　ン教師の下半身を弄り続け、真琴はプールサ  
　　プールの中にいる男子生徒達は水中でイケメ  
　　ベテラン男性教師の怒鳴り声が響いても尚、  
　　「あぁっ・・あぁっ」  
　　り、プール全体に緊張が走った。  
　　プールのサイドにいる生徒達は一瞬で静まり返  
　　ベテラン男性教師がついに大声で怒鳴ると、  
　　にはまた罰を受けてもらおうぞ！  
　　泳大会の進行を妨げるようであれば、アナタ  
　　「三神先生、これ以上ふざけたマネをして水  
　　は太刀打ちできなかつた。  
　　うとしたが、一人ではとても彼ら大勢の力に  
　　き下半身を弄る男子生徒達の手を払いのけよ  
　　そうして、真琴はプールの中で必死にもが

と向かった。  
それから程なくしてプールサイドのスピー  
カーから進行係の女子生徒のアナウンスが流  
れた。  
『只今プールの中で行われている三年生男子  
の水球決勝は、急遽特別ルールにより勝敗を  
決めることになりました』  
そこまでアナウンスが流れると、プールの中  
にいる男子生徒達は驚いた様子で、イケメン  
教師の体を弄る手を一旦止め、放送に聞き入  
った。  
『特別ルールはボールの代わりに三神先生を  
相手チームのゴール先に入れた方が勝ちと  
します。尚、三神先生はこれよりどちらのチ  
ームにも属さないものとなります』  
進行係の女子生徒がそうアナウンスすると、  
プールの中にいる男子生徒達から「ウォッー  
と、いう威勢の良い声が上がり、皆その新た  
なルールを喜んで受け入れたのだった。  
『また三神先生におかれましては、水球競技

に おい て 不 真 面 目 な 行 為 で 水 泳 大 会 の 進 行 を  
著 し く 遅 ら せ た 罰 と し て 、 水 球 が 終 了 後 、 校  
庭 を 十 周 走 っ て 頂 き ま す 』  
進 行 係 の 女 子 生 徒 が 事 務 的 な 口 調 で そ う 告 げ  
る と 、 今 度 は プ ー ル サ イ ド の 生 徒 達 か ら 「 ウ  
オ ッ ー 」 と い う 威 勢 の 良 い 唸 り 声 が 湧 き 起 こ  
っ た 。  
そ ん な バ カ な ・ ・ ・ 。 驚 愕 の ア ナ ウ ン ス を  
聞 い た 真 琴 は 、 プ ー ル の 中 で 一 人 呆 然 と し た  
表 情 を 浮 か べ て い た 。 水 球 の 試 合 中 に 男 子 生  
徒 達 に 下 半 身 を 好 き 放 哉 に 弄 ら れ た 自 分 は 被  
害 者 で あ る は ず な の に 、 ど う し て 被 害 者 が 罰  
を 受 け な け れ ば な ら ない の か 、 真 琴 に は 全 く  
理 解 で き な か っ た 。  
し か も 、 水 泳 大 会 が 行 わ れ て い る 最 中 に 校  
庭 を 素 っ 裸 で 十 周 も 走 ら さ れ る な ど あ り え な  
い 罰 だ っ た 。 一 体 誰 が こ ん な 酷 い 罰 を 考 え た  
の か 、 も し か し て ク ラ ス 委 員 の 相 葉 達 な の か  
そ れ と も 他 の 誰 か な の か 、 真 琴 は や る せ な い  
気 持 ち で 一 杯 に な り 、 そ ん な 事 ば か り 考 え て

いた。  
「よし、それじゃあ先生をゴールに叩き込むぞ！」  
「先生をゴールに押し込んで絶対に勝つぞ！」  
プールの中にいる男子生徒達は、お互いに掛け声を上げて士気を高めると、一斉にイケメン教師に襲い掛かった。  
「あああっ」  
下半身に伸びてきた複数の手によって再びイチモツを驚掴みされた真琴は、けたたましいオスの喘ぎ声を上げて悶え狂った。  
今度はさつきまでと違い敵と味方にハッキリと分かれて互いにイケメン教師のイチモツを奪い合った。  
「先生のチ○コを引っ張ってゴールまで連れて行くぞ！」  
イケメン教師のイチモツを独占することに成功した一組の男子生徒達は、数人がかりで真琴のイチモツを扱きながら相手ゴールへと勢い良く泳ぎ始めた。

「あああっ、もうやめてくれ・・・あああっ  
イチモツを強い力で引っ張られた真琴は下半  
身に伝う痛みと快感に悶え狂った。  
「こっちは先生の袋を掴んで引っ張って行く  
ぞ！」  
相手チームの男子生徒達は真琴の玉袋を数人  
がかりで握りしめると、イケメン教師を反対  
側のゴールへ何とか引っ張って行こうとした。  
「うあああっ」  
イチモツと袋の両方を握られ、それぞれを反  
対方向へ引っ張られた真琴は、断末魔の叫び  
声を上げて悶え狂った。  
その時、プールサイドから観戦する全校生  
徒や同僚教師達は、イケメン教師がプールの  
中で底なしの快感地獄へ堕ちていく姿を意味  
深な笑みを浮かべながら見守っていたのだっ  
た。

■ 海老沢薫 B L O G

<http://kaoruebisawa.blog.fc2.com/>

・ ・ ・ 連載小説『イケメン社長 聖哉 25歳  
| 体を賭けた屈辱の取引 |』や最新作の出版  
情報、そのほか各種コンテンツ情報などを配  
信。



■ 海老沢薫 Web連載小説

『イケメン教師の受難 伝説の運動会篇』

<https://regimag.jp/bo/book/detail/?book=36195>

・ ・ ・二十五歳のイケメン教師、三神真琴はその端正なルックスと気さくで優しい人柄から勤務する高校で女子生徒達のアイドル的存在だった。しかし一方で、そんなイケメン教師の事を良く思わない男子生徒達もおり、ある日の放課後、真琴は担任するクラスの生徒達の畏に嵌まり、教師生命を脅かすほどの弱みを握られてしまう。その日から真琴は担任するクラスの生徒達に脅迫されるようになり、自身の教師人生を守るために彼らの奴隷として服従するようになる。時に教師としてのプライドはおろか一人の男性としての尊厳までを奪われるような屈辱を味わい、どうしようもない自己嫌悪に陥る

こともあったが、それでも真琴は生徒の奴隷として日々懸命に戦っていた。そうして、学園の一大イベントである運動会の季節が訪れ、真琴はそこでもクラスの生徒達に脅迫されてしまう。運動会はイケメン教師の羞恥ショーと化し、真琴は全校生徒や同僚教師、観戦に訪れた大勢の父兄達が見つめる前で、途轍もない生き恥を晒すことになるのだった。

『イケメン春輝 二十歳の憂鬱』

<https://regimag.jp/bo/book/detail/?book=31764>

・ ・ ・ 大学二年生の藤島春輝は、大学の学園祭のミスターコンテストに無理矢理エントリーさせられ、そのステータジ上で罨に嵌められ大勢の学生達が見つめる前で死ぬほど恥ずかしい痴態を晒してしまう。それでも見事グランプリを受賞した春輝はセレモニーとして一糸纏わぬ姿で大学のキャンパス内を練り歩き、他の学生達の見世物になつたのだった。数日後、ミスターコンテスト実行委員会の学生から連絡を受けた春輝は、毎年恒例のグランプリ受賞者の記念写真集を製作する話を聞かされる。今年のグランプリ受賞者の春輝は、学園祭のステータジ上で前代未聞の痴態を披露した事からヌード写真集にすることが決まり、実行委員会の主要メンバーである須藤から脅された春輝は仕方なく撮影に応じることになった。

り・・・。  
後日、早速授業中の大教室で撮影をするこ  
とになった春輝は、一番後ろの席で須藤に命  
じられるまま服や下着を脱いでいき、糸纏  
わぬ姿でポーズを披露する。  
そうして撮影はだんだんエスカレートして  
いき、イケメン学生は授業中の大教室だけで  
なく、図書館や学生食堂でも極限の羞恥地獄  
を味わうことになるのだった。

『イケメン社長 聖哉25歳 | 体を賭けた  
屈辱の取引 | 大型ショッピングモール編』

[https://regimag.jp/bo/book\\_view/?book=18357](https://regimag.jp/bo/book_view/?book=18357)

・ ・ ・ 吉川聖哉は、大学生時代に起業した二十五歳の若き事業家だった。頭脳明晰で抜群のルックスを持ち、社交的な聖哉はまさにイケメン社長と呼ぶにふさわしい華やかさを備えていた。

大学生の頃には、将来有望な若手イケメン社長として一部のメディアでも取り上げられるなど、他人が羨むほど順風満帆な人生を送っていた。

しかし、いつしか聖哉の会社の業績は低迷し、華やかだった生活は次第に陰りを見せていく。

自分に付いてきてくれる社員のため、そして自分の理想のために会社を立て直すべく日夜必死に働き続ける聖哉。

かつて将来有望な若手社長としてもはや忘れていたイケメン社長は、どんな泥臭い仕

事でも引き受けるようになる、心ない取引先  
やユーザー達からの羞恥の命令にも従い、人  
生を翻弄されていくのだった。

『イケメン社長 聖哉25歳 一体で償う屈辱のクレーム | 会議室篇』

<https://regimag.jp/bo/book/detail/?book=38623>

・ ・ ・ 25歳のイケメン社長、吉川聖哉は大学生時代に起業し、若くして成功したカリスマ社長であった。しかし、聖哉の会社は次第に業績が悪化し倒産の危機に瀕する状況まで追い込まれていった。そのため、聖哉は会社存続のために新たに人材派遣事業を興し、様々な企業と取引を始める。そんなある時、聖哉の元に大口の取引先から一本のクレームの電話が入った。取引先の相手は電話越しに聖哉を激しく罵倒し、今すぐ自社まで謝罪に来るよう命じた。ただでさえ倒産の危機に直面している会社は、この大口の取引先を絶対に失うわけにはいかず、慌てて謝罪へと向かう社長の聖哉。而して、取引先の会議室へ案内された聖哉

の元に担当部長と現場責任者、そして問題を  
起こした当事者である聖哉の会社の社員が現  
れ・・・。  
平身低頭に謝罪する聖哉に対し、取引先の  
相手は誠意ある謝罪を要求し、あまりにも屈  
辱的な命令を突き付ける。  
社長としてのプライドだけでなく、一人の  
人間としての尊厳までも奪われるような命令  
に聖哉は憤りを覚えずにはいられなかったが  
自分の会社や社員を守り抜くために彼らの命  
令に従う覚悟を決め、ついに底なしの羞恥地  
獄へと堕ちていくのだった。